

ベッド上書見台

紹介者 宮野 秀樹

ベッド上で使用する書見台を紹介します。現在、褥瘡治療のため入院しており、もてあました時間を読書で埋めるために、作業療法士の先生にお願いして製作してもらいました。当初は、マウススティックを使って自分でページをめくることも考えましたが、褥瘡治療のために体位交換を頻繁に行なうためいろいろな角度に対応するものを作るには時間もかかることから、ページをめくることは断念しました。仰臥位と側臥位の状態で読むことと、簡単に読めることを目的とした書見台にしました。書見台の構造はいたってシンプルです。アクリル板を顔の上に固定するために角材でフレームを作り、それを支えて倒れないようにする脚部も角材で作ってあるというだけの「本置き台」といった感じです。アクリル板フレームの角度を調節できるようにネジ止めを工夫してあるのみ。誰でも手軽に作れると思います。本を読む方法は、本を開いてアクリル板の上に「文字が書いてある方を下にして」置くだけです。アクリル板が透明ですので、簡単に読むことができます。ただし、必須条件としては介助者にめくってもらわなくてはなりません。常に介助者がいる人には便利な道具ですが、いない人には不便かもしれません。暗い環境で読むと視力が弱くなる恐れもあります。部屋を明るくして読書するようにしましょう。

